



株式会社ジーシーシー

企業情報

業 種：情報通信業
所 在 地：前橋市（国内 10 拠点）
従業員数：686 名うち外国人材 11 名
〔在留資格：技術・人文知識・国際業務 11 名〕
〔国籍：ミャンマー、中国〕
ホームページ：https://www.gcc.co.jp/

円滑に業務を進め、日本での生活に馴染むことを目指した充実した入社前教育

Q 業務内容、外国人材の受入れ経験について教えてください。

地方公共団体向けの業務システムを開発している IT 企業です。主に市区町村の窓口等で使用する税金や福祉などの住民情報を管理するシステムの開発から保守管理まで担当しています。

1996年から外国人材を受け入れており、ミャンマー及び中国の国籍の方を採用した経験があります。現在は、11名の外国人材が働いています。

Q 外国人材が活躍している職種、活躍状況について教えてください。

外国人材は、自治体窓口で使用する福祉関係業務システムの開発チームへ所属し、システムエンジニアとして活躍してもらっています。

大学で学んだ高いプログラミング能力を生かして、ユーザーにとってより使いやすいシステムになるようにプログラムの改良を行うほか、プログラムが正常に作動するかの確認作業等を担当してもらっています。

外国人材はプログラミング能力が非常に高いため、プロジェクトを円滑に進めることができます。また、仕事に対する姿勢が真摯で、業務知識の吸収が非常に早く、日本人新入社員へのOJT担当をするまでに成長している者もあり、日本人社員にとっても良い刺激となっています。

Q 外国人材の採用方法について教えてください。

大学のカリキュラムが専門的で弊社の業務との相性が良いミャンマーの大学（外国人材の母校であるミャンマーでトップクラスのIT系大学）を通じて採用活動をおこなっています。大学側と調整の上、代表者及び採用担当者が現地で学生の面接を行い、採用しています。面接時には、弊社で働く外国人材が業務説明や通訳等を担当し、弊社の業務内容や日本での生活について納得してもらった上で採用をしています。

なお、国内留学生は、日本人学生と区別することなく、民間の就職情報サイト等を活用して採用しています。

Q 外国人材への研修内容や定着に向けた支援について教えてください。

入社後の不安を少なくし、円滑に業務を進め、日本での生活に馴染めるよう、入社前教育に力を入れています。ミャンマーの大学と連携し、内定から入社までの1年間に渡り、ミャンマー現地にてインターンシップ（3ヶ月間）及び日本語教育（1年間）を実施しています。

インターンシップでは、日本の自治体向けプログラム改修の課題に取り組んだり、ビジネスマナーや日本の文化等について学び、入社後の実務で必要なスキルについて事前に経験してもらっています。

また、インターンシップの一環として、日本への出張研修も行っており、入社後に働いてもらう職場環境や生活環境等について事前にイメージできる機会を提供することで、入社後のミスマッチが生じないように支援しています。

日本語教育については、現地の日本語学校に会社負担で通学し、来日前に日本語能力試験N3相当を習得してもらい、来日後の生活が円滑に送れる日本語能力を身につけてもらっています。

入社後は、生活の立ち上げに必要な住居契約や各種行政手続き等を支援しています。また、早期に会社に慣れてもらい、困ったことがあれば、いつでも気軽にチーム内の先輩や同期社員に相談しやすい雰囲気づくりに努めています。

入社前教育により、入社後の不安を軽減し、業務に安心して打ち込める環境を整備していることが定着につながっていると考えています。



インターンシップの様子

VOICE

【外国人スタッフの声】



イン ティリ カインさん (ミャンマー出身)

福祉医療助成システムの開発を担当しているほか、OJTトレーナーとして、日本人新入社員への作業フィードバックを担当しています。業務を通じて専門知識や日本語での資料作成能力が身につけられ、日々成長を感じることができます。

弊社では、教育制度が優れており、入社前のインターンシップや日本語教育、入社後の新入社員研修など、すべてが業務とつながっているため、円滑に仕事に取り組めます。

充実した教育により安心して勤務ができるので、多くの会社で取り入れて欲しいです。

【代表者の声】

外国人材は、強い意思を持って来日していますが、家族と離れた生活で寂しさを感じることもあります。そのため弊社では、外国人材を採用する際には最低3人採用するようにしています。

2人だと話し合いをする中で不安等が増幅されてしまうこともあります。3人採用すると客観的な視点から話し合いができるようになり、不安等の軽減につながります。



ウイン レ モンさん (ミャンマー出身)

障害福祉の総合支援システムの開発を担当しているほか、画像処理のAIプロジェクトにも携わっています。ユーザーにとって使いやすいシステムになるようチームで協力しながら対応しています。

弊社では、皆フレンドリーで家庭的な雰囲気のため、日本語能力の不安や孤独が和らぎます。

また、自分の担当業務に加えて、新技術を活用したプロジェクトに参加し、自らの知識を広げることができることも大きな魅力です。



代表取締役社長 町田 敦さん